

今城塚古墳(高槻市)

いましろづか

ここは今城塚古代歴史館



「史跡 今城塚古墳」への通り道の仮囲いに取り付けられている説明板





幾つかアップにしてみる

大王陵でも 労働力節約？

外濠わずか80センチ

高槻・今城塚古墳

を調査、後円部の直径が想定よりも十層長い約百層だったことが確定した。

また、内濠が深さ二層以上あったのに対し、外濠は幅一八・五層、深さ約〇・八層で、水もない空濠だったことがわかった。

同センターは「出生など

を主張するため、あえて二重の濠を持った大古墳の設計を採用したが、労働力を節約する必要があったのでは」と分析している。調査

では、鉄製の矢じりやよろいの一部など副葬品とみられるものも見つかった。

現地説明会は二十三日午後一時から。

「真の継体天皇陵」とみられる今城塚古墳（大阪府高槻市、前方後円墳、全長百八十六層）を調査していた同市立埋蔵文化財調査センターは二十日、外濠（そとぼり）の深さが築造当初から約八十センチしかないと発表した。

六世紀前半では全国最大級の大王陵も労働力を節約していたらしい。また、戦国時代に古墳を砦（とりで）に改造した織田信長の鉄砲隊のものともみられる鉛玉も外濠から見つかった。

同センターは今回、信長



大阪府高槻市の今城塚古墳の外濠（そとぼり）

継体天皇？も さぞやビックリ

慶長伏見地震で 地滑り



継体天皇（五三二年没）（けんびし）型」とする定説も地滑りによる変形と分り、古墳の形式研究にも大きな影響を与えそうだ。

前方後円墳「今城塚（いましろづか）古墳」で、伏見城天守閣が大破した一五九六（慶長元）年の慶長伏見地震で起きたとみられる全国でも例のない大規模な地滑り跡が見つかり、高槻市教委が二十四日、発表した。前方部前面が剣先のようにとがる特殊な「剣菱

全国でも例のない大規模な地滑り跡（右手前）が見つかった今城塚古墳＝24日午後3時35分、大阪府高槻市

高槻市「今城塚古墳」盛り土、幅90㍍奥行き50㍍崩落



みられ、盛り土が落ちた側の底は大きく湾曲していた。

同市教委では、地滑りは周辺の断層の活動状況などから史上最大級の地震、慶長伏見地震によって発生したと推測。同古墳は一五六八年に摂津に進攻した織田信長がとりでを築くために造成しており、工事のため墳丘の地盤が弱くなっていたことも地滑りの要因とみている。現地説明会は二十六日午前十一時から。

通産省工業技術院地質調査所の寒川旭地域地質研究所（地震考古学）の話

「大きな地滑り跡がこれほどはっきり残っていることは奇跡に近く、地震研究の貴重な資料になる。古墳の形式を研究するうえでも、古墳が地震で変形していることを考慮する必要がある」と



今城塚古墳出土の家形埴輪の復元想像図



千本をもちた重床式の家

今城塚古墳から見つかった国内最大の
家形埴輪の基底部
11月20日午後2時35分、大阪府高槻市

■今城塚古墳 6世紀前半に築かれた全長190mの前方後円墳。宮内庁は、約1.5mの西の太田茶臼山古墳（大阪府茨木市）を531年に築いたと推定しているが、太田茶臼山古墳からは5世紀の埴輪が出土。時代のずれが確認されたことなどから、今城塚古墳を継体天皇陵とする学説が有力になっている。

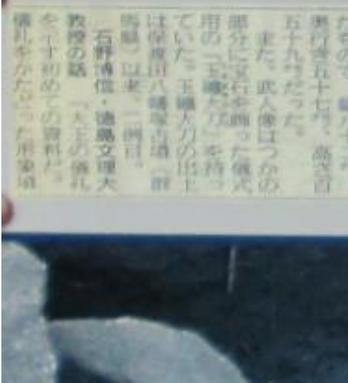
国内最大の家形埴輪出土

60武人など 継体天皇陵説を補強

高槻・今城塚古墳

大阪府高槻市郡家新町表した。大王陵の古墳が、継体天皇の前方後円墳で、継らうれほどまをまつて形にあり、その説がある。家形埴輪が出土したのは初の史跡「今城塚古墳」めで、大王陵での葬送へ六世紀前半から、国儀礼を知る重要な資料に内最大の家形埴輪など六なりであった。

大蔵府高槻市郡家新町表した。大王陵の古墳が、継体天皇の前方後円墳で、継らうれほどまをまつて形にあり、その説がある。家形埴輪が出土したのは初の史跡「今城塚古墳」めで、大王陵での葬送へ六世紀前半から、国儀礼を知る重要な資料に内最大の家形埴輪など六なりであった。



り、家形を外に置き、人輪が出てきたことで、埴輪はほとんどが西向き、夫にあつた大王の葬送儀礼が確認できる。大王陵を意図したとみられる。四体ある家形埴輪のうち最大のは、底の部分が幅百十、奥行八、高さは推定で百七、四柱を使った高床式で、入母屋式の屋根を持つ。神社建築に特徴的な屋根をもち、木（屋根の両端に交差させて突き出した木）や、壁木（棟木の上に乗せた四脚）が配されており、神楽の形を呈していた。これまで最大の家形埴輪は昭和五十二年に同古墳で採取されたもので、幅八十二、奥行五十七、高さ百五十九だった。

また、武人像はつかの部分に実行を飾った儀式用の「玉織たね」を持っていた。玉織たねの出土は奈良田八幡塚古墳（前橋）以来、二例目。石野博信、徳島文理大教授の談、「大王の儀礼を予めつた資料」と、儀礼をかたちとした家形埴輪が出土した。

大蔵府高槻市郡家新町表した。大王陵の古墳が、継体天皇の前方後円墳で、継らうれほどまをまつて形にあり、その説がある。家形埴輪が出土したのは初の史跡「今城塚古墳」めで、大王陵での葬送へ六世紀前半から、国儀礼を知る重要な資料に内最大の家形埴輪など六なりであった。

高槻・今城塚古墳で発見



今城塚古墳の前方部、南西隅で見つかった円筒埴輪列
（23日午後、大阪府高槻市）



今城塚古墳では、これまでに見つかった円筒埴輪列は、今城塚古墳の前方部中央付近の騎力士や、オレンジ色を帯びた乳白色のメノウ製勾玉（まがたま）（全長約三・三センチ）も発掘された。

前方部南西隅 祭祀の場か

通常、円筒埴輪は墳形に沿って見つかるが、今回は前方部の隅で二度折れ曲がり、三角形の隅を切り落としたような方形に並んでいた。こうした円筒埴輪列が見つかったのは全国初。墳丘と外部を区切る「結界」だったとみられる。

も直徑約三十センチで、地面に埋まった根元部分しか残っていなかった。前方部の隅付近では、つばと円筒を合体させた朝顔形埴輪一個も見つかった。前方部正面に幅約六層のテラスがあり、後部のテラス幅約三・五センチ

真の継体天皇陵とされる大阪府高槻市の今城塚古墳（六世紀前半、前方後円墳）で、前方部の南西隅から特異な配列の円筒埴輪三千五百個が見つかり、二十三日、高槻市教委が発表した。

も直径約三・三センチとみられる。二百二十八個に上る。富内氏が継体陵に推定している太田茶臼山古墳（同府茨木市）は、築造時の埴輪が五世紀中ごろだったことが分かっている。六世紀前半に住居したとされる継体天皇とは別人の墓であることが確定的になっている。現地説明会は二十八日正午から午後三時まで。

平成17(2005)年 8月24日
京都新聞(共同通信社配信)

【6】儀式の場(北造出)／【7】儀式の場(南造出)／【8】墳丘をとりまく水濠／【9】、【12】内濠をかこむ堤／【11】聖域をあらわす垣根



さて、これが上図の「はにわバルコニー」から見た今城塚古墳の墳丘/左手が後円部、右手が前方部/手前は埴輪祭祀場



左手を見たところ/後円部方向



右手を見たところ/前方部方向



これは「内濠をかこむ堤」で後円部方向を見たところ



内濠(前方部側は水濠、後円部側は芝生の広場になっている)を見たところ/正面前方やや右手の張り出しは「儀式の場(北造出)」



右手の張り出しが「儀式の場(北造出)」/そのすぐ左手はくびれ部



内濠が後円部を取り巻いている



振り返って後円部から前方部方向を見たところ/墳丘のくびれ部が見てとれる



これは前方部を内濠が取り巻いている様子/堤の木々が「聖域をあらわす垣根」



これが「埴輪祭祀場」/約190点もの形象埴輪が発掘調査で確認された位置に復元配置されている



参考ホームページ

<http://inoues.net/ruins/keitai.html>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%8A%E5%9F%8E%E5%A1%9A%E5%8F%A4%E5%A2%B3>

<http://www.y-morimoto.com/kofun/imashiro.html>

http://www.bell.jp/pancho/kasihara_diary/2005_12_10.htm

<http://maidonews.com/archives/1643>

<http://www.adnet.jp/nikkei/shiseki/contents/025.html>

<http://d.hatena.ne.jp/makoto-jin-rei/20140708/p1>

<http://sendo.fc2web.com/flame02/imasirodukakohunn/imasirodukakohunn.htm>

http://www.marchenchapel.jp/outdoor_na_hibi_kofun_imashirozuka.html

